

【兵庫県 多可町】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

- ・ **個別最適な学びの推進：**
 - ・それぞれの児童生徒の学習進度や興味・関心に合わせた教材や学習内容を提供し、一人ひとりの能力を最大限に引き出す。
 - ・反復学習や発展学習など、個々のニーズに合わせた学習活動を可能にする。
- ・ **協働的な学びの促進：**
 - ・グループワークやディスカッションなど、多様な学習形態を促進し、コミュニケーション能力や協働性を育成する。
 - ・遠隔地にいる生徒との共同学習を図り、多様な視点に触れる機会を提供する。
- ・ **情報活用能力の育成：**
 - ・情報収集、分析、発信能力を養い、これからの社会で求められるデジタルリテラシーを育成する。
- ・ **いつでもどこでも学べる学習環境：**
 - ・時間や場所に縛られない学習が可能となり、生徒の学習意欲を高める。
 - ・自宅での学習や、学校以外の学習施設での学習も容易になる。
 - ・多様な教材や学習コンテンツの活用できる。
 - ・動画、音声、画像、シミュレーションなど、多様な教材を活用した効果的な学習が可能となる。
 - ・AI を活用した学習支援システムの導入により、よりパーソナライズされた学習が可能になる。
- ・ **アクティブラーニングの推進：**
 - ・グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなど、生徒が主体的に学ぶアクティブラーニングを促進する。
- ・ **教員の働き方改革：**
 - ・教員の事務作業の負担を軽減し、より多くの時間を生徒との対話に充てることができる。
 - ・個別指導や少人数指導など、きめ細やかな指導が可能となる。

2. GIGA 第 1 期の総括

町内すべての小中学校に 1 人 1 台端末を整備し、児童、生徒一人ひとりが各自の学習に合わせた利用が可能となった。また各校から直接インターネットに接続する高速な通信ネットワークを整備し、オンライン学習やクラウドサービスの利用が円滑に行えるようにな

った。

利活用を図って行く中でドリル教材や協働学習ツールを使い個別最適な学習環境を提供することができた反面、教員への負担、学力向上への評価が難しいと感じられる場面があった。また情報モラルに関する単元の確保が非常に難しいと感じられる。すきま時間を活用し学習の機会を与えるソリューションの導入も実施したものの限られた時間の中で情報モラル学習の時間を確保することは難しい。

- ・ GIGA 第 1 期における課題解決
教職員の ICT リテラシー向上と働き方改革

ICT の活用について教員 1 人ひとりが個別に研究するのではなく校内研修会やオンライン講座を通じて手法を学び状況共有を図りながら活用について情報共有を図り、ICT を活用することで学習教材の準備にかかる時間短縮を図る。

すきま時間を活用した ICT ドリル教材を活用し復習の機会を与え、学力向上に向けた取り組みを推進する。

セキュリティソフトによる有害サイトへのアクセスは実施しているものの情報の正確性の判断、信頼できるコンテンツの判断などインターネットとの上手なつきあい方について学習の幅を広げることが重要であることから“ひょうご GIGA ワークブック”を活用した情報モラル教育を推進する。

3. 1 人 1 台端末の利活用方策

GIGA 第 1 期では、1 人 1 台端末の日常的な活用をすすめた結果、1 人 1 台端末は学習面において必要不可欠なものとなっている。

そのような中、令和 2 年度に整備した端末は、経年劣化が進み、物理的な故障に加え、バッテリーの消耗など、授業での活用に支障が出る場面が増えつつある。児童生徒の学びを止めないためにも、1 人 1 台端末の着実かつ円滑な更新を進める。

GIGA 第 2 期においては、次のとおり、1 人 1 台端末の積極的活用を推進し、「個別最適な学び・協働的な学びの充実」を図る。

1. 1 人 1 台端末の積極的活用

各校の教職員が ICT 活用の目的を理解し、ICT 活用指導力が向上するよう、デジタル教科書や授業支援ソフト、ドリル教材など ICT 活用に関する研修を定期的実施し、教職員のスキルアップに繋げる。

授業での端末活用に加え、朝学習、すきま時間を活用した端末の活用、また家庭への持ち帰りを全校で実施し、校内及び家庭学習での活用を推進する。

2. 個別最適・協働的な学びの充実

学習面において、調べ学習や自分の考えをまとめ発表・表現する場面、教職員と児童生徒、児童生徒同士がやりとりする場面など、ICT を活用する場面は多様である。

児童生徒が自らの考えで、目的や場面に合わせて ICT を使い分けて効果的に活用し、課題を発見・解決する力を育成する。

さらに、児童生徒一人ひとりの特性や理解度・進度に合わせた方法で学習を進めると

め、AI 型デジタルドリルの活用及び各自の学習履歴をはじめとする教育データの利活用についても検討を行う。

3. 学びの保障

GIGA 第 1 期に引き続き、第 2 期においても日常の授業で端末をより効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面で ICT の活用を進めていく。